

平成 28 年社会生活基本調査
福井県の概要

◆ 生活時間編 ◆

平成 29 年 12 月
福 井 県

目 次

結果の概要

1	1日の生活時間の配分	1
2	1次活動	3
3	2次活動	5
4	3次活動	11
5	夫と妻の生活時間	15
6	高齢者の生活時間	17
7	在学者の生活時間	19
8	スマートフォン・パソコンなどの使用状況	20

調査の概要	24
-------	----

用語の説明	26
-------	----

— 利用上の主な用語 —

- 1 次 活 動……睡眠、食事など生理的に必要な活動
- 2 次 活 動……仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動
- 3 次 活 動……1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動
- 総 平 均 時 間……該当する種類の行動をしなかった人を含む全員の平均
- 行動者平均時間……該当する種類の行動をした人のみについての平均
- 週 全 体 平 均……平日、土曜日、日曜日の曜日別結果の平均

— 利用上の注意 —

- 1 この結果の概要では、特に断りのない限り、総平均時間の数値を記載している。
- 2 本文および図表中の数値は、表章単位未満の位で四捨五入していること、また、総数に「不詳」の数を含むことから、総数と内訳を合計した数値とは必ずしも一致しない。
- 3 表中の「0」および「0.0」は、集計した数値が表章単位に満たないものである。
- 4 表中の「—」は、該当数字のない箇所である。
- 5 表中の「…」は、サンプルサイズが10未満で、結果精度の観点から表章していない箇所である。

結果の概要

1 1日の生活時間の配分

(1) 概況

◆男女ともに1次活動および2次活動時間が増加、3次活動時間が減少

福井県に住んでいる10歳以上の人について、週全体平均（以下「週全体」という。）による1日の生活時間をみると、1次活動時間が10時間48分、2次活動時間が7時間5分、3次活動時間が6時間7分となっている。前回調査の平成23年と比べると、1次活動時間が4分増加、2次活動時間が9分増加し、3次活動時間が14分減少した。

男女別にみると、1次活動および2次活動時間は女性が男性より長く、3次活動時間は男性のほうが長くなっている。平成23年と比べると、男女とも1次活動および2次活動時間が増加し、3次活動時間が減少した。特に女性は、2次活動時間が15分増加し、代わりに3次活動時間が21分減少しており、2次活動時間は全国で2番目に長く、3次活動時間は全国で最も短い。〔表1〕

◆男女ともにテレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間が最も減少

行動の種類別にみると、睡眠時間が7時間47分、仕事時間が3時間52分、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間が2時間2分などとなっている。平成23年に比べ、仕事時間が6分の増加と最も大きく増加し、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間が16分の減少と最も大きく減少した。

男女別にみると、男女ともテレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間が15分以上の減少と最も大きく減少している。また、男性は休養・くつろぎの時間が11分の増加と最も大きく増加し、女性は仕事時間が10分の増加と最も大きく増加している。〔表1〕

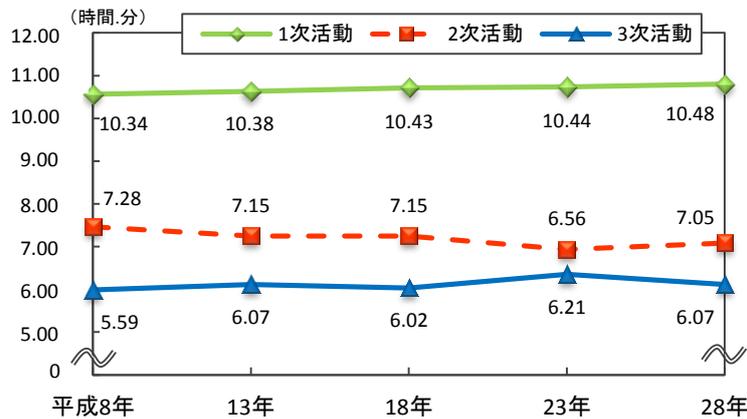
表1 男女、行動の種類別生活時間（平成23年、28年）—週全体

	総数			男			女		
	平成23年	平成28年	増減	平成23年	平成28年	増減	平成23年	平成28年	増減
1次活動	10.44	10.48	0.04	10.38	10.43	0.05	10.48	10.54	0.06
睡眠	7.48	7.47	▲0.01	7.56	7.56	0.00	7.40	7.39	▲0.01
身の回りの用事	1.18	1.23	0.05	1.07	1.11	0.04	1.28	1.34	0.06
食事	1.38	1.38	0.00	1.35	1.36	0.01	1.40	1.41	0.01
2次活動	6.56	7.05	0.09	6.47	6.49	0.02	7.04	7.19	0.15
通勤・通学	0.23	0.26	0.03	0.28	0.31	0.03	0.17	0.22	0.05
仕事	3.46	3.52	0.06	4.53	4.54	0.01	2.43	2.53	0.10
学業	0.39	0.42	0.03	0.43	0.42	▲0.01	0.35	0.41	0.06
家事関連	2.08	2.06	▲0.02	0.43	0.42	▲0.01	3.29	3.24	▲0.05
家事	1.28	1.25	▲0.03	0.22	0.22	0.00	2.30	2.24	▲0.06
介護・看護	0.03	0.05	0.02	0.01	0.02	0.01	0.05	0.08	0.03
育児	0.15	0.14	▲0.01	0.06	0.04	▲0.02	0.23	0.22	▲0.01
買い物	0.22	0.22	0.00	0.14	0.14	0.00	0.31	0.30	▲0.01
3次活動	6.21	6.07	▲0.14	6.34	6.28	▲0.06	6.08	5.47	▲0.21
移動(通勤・通学を除く)	0.28	0.25	▲0.03	0.27	0.25	▲0.02	0.29	0.26	▲0.03
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2.18	2.02	▲0.16	2.25	2.07	▲0.18	2.11	1.56	▲0.15
休養・くつろぎ	1.35	1.38	0.03	1.31	1.42	0.11	1.39	1.35	▲0.04
学習・自己啓発・訓練(学業以外)	0.10	0.12	0.02	0.10	0.12	0.02	0.10	0.12	0.02
趣味・娯楽	0.45	0.45	0.00	0.53	0.54	0.01	0.38	0.36	▲0.02
スポーツ	0.14	0.15	0.01	0.18	0.19	0.01	0.10	0.11	0.01
ボランティア活動・社会参加活動	0.04	0.06	0.02	0.05	0.06	0.01	0.04	0.05	0.01
交際・付き合い	0.17	0.16	▲0.01	0.20	0.15	▲0.05	0.15	0.18	0.03
受診・療養	0.12	0.08	▲0.04	0.11	0.09	▲0.02	0.13	0.06	▲0.07
その他	0.17	0.20	0.03	0.15	0.19	0.04	0.18	0.21	0.03

(2) 生活時間の推移

過去20年間の生活時間の推移をみると、1次活動および3次活動時間は増加傾向、2次活動時間は減少傾向となっており、20年前の平成8年と比べると、1次活動時間は14分増加、3次活動時間は8分増加しているのに対し、2次活動時間は23分減少している。〔図1〕

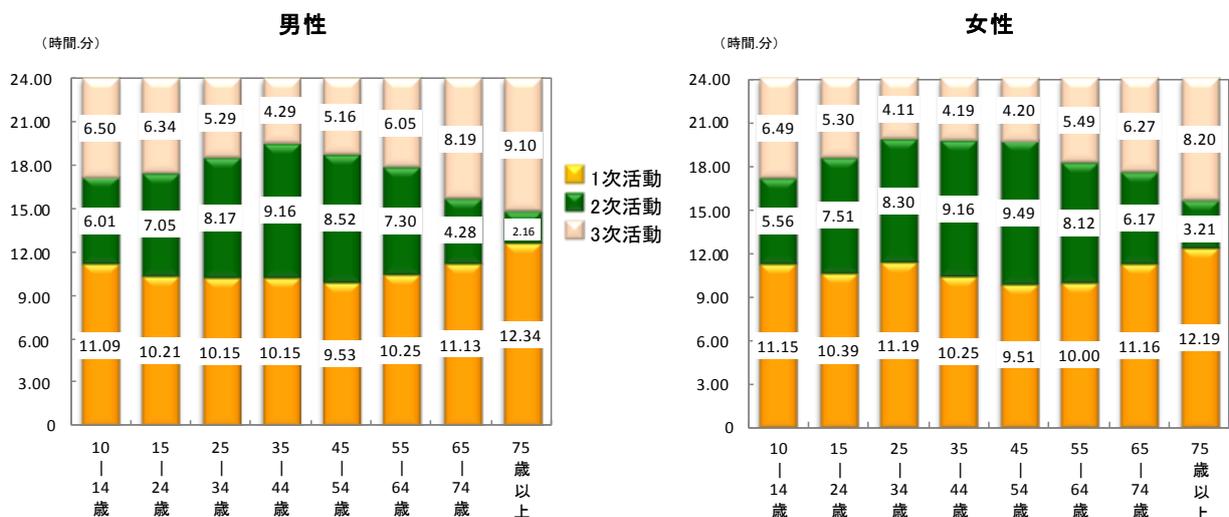
図1 行動の種類別生活時間の推移（平成8年～28年）一週全体



(3) 年齢階級別にみる生活時間

生活時間を年齢階級別にみると、1次活動時間は、男女ともに45～54歳が最も短く、75歳以上が最も長くなっている。2次活動時間は、男女ともに75歳以上が最も短く、男性は35～44歳が9時間16分、女性は45～54歳が9時間49分と最も長くなっている。3次活動時間は、男性は35～44歳が4時間29分、女性は25～34歳が4時間11分と最も短く、男女ともに75歳以上が最も長くなっている。〔図2〕

図2 男女、年齢階級、行動の種類別生活時間（平成28年）一週全体



2 1次活動

(1) 睡眠

◆睡眠時間は45～54歳が最も短い

睡眠時間は7時間47分となり、平成23年より1分減少したが、全国に比べ7分長くなっている。過去20年間の推移をみると、常に全国を上回っているが、全国と同様にわずかながら減少傾向となっており、平成8年に比べ4分の減少となった。〔図3〕

男女別にみると、男性が女性より長く、男性は平成23年と変わらず7時間56分となり、女性は1分減少し7時間39分となっている。〔図4〕

年齢階級別にみると、45～54歳が7時間1分と最も短く、75歳以上が8時間57分と最も長い。全国と同様に45～54歳を谷としたV字型になっている。〔図5〕

図3 睡眠時間の推移
(平成8年～28年) 一週全体

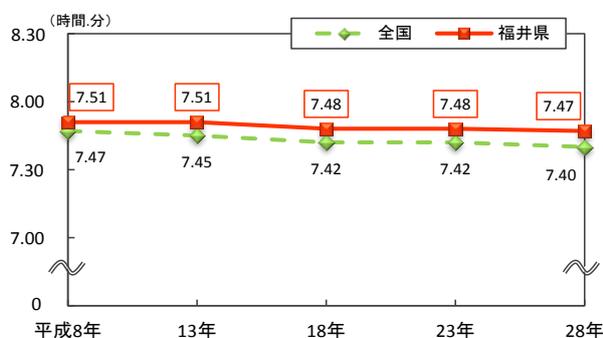


図4 男女別睡眠時間の推移
(平成8年～28年) 一週全体

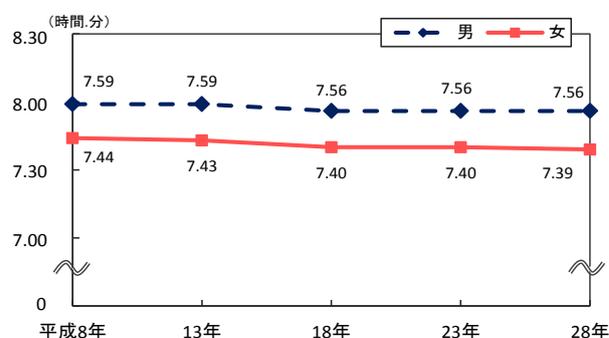
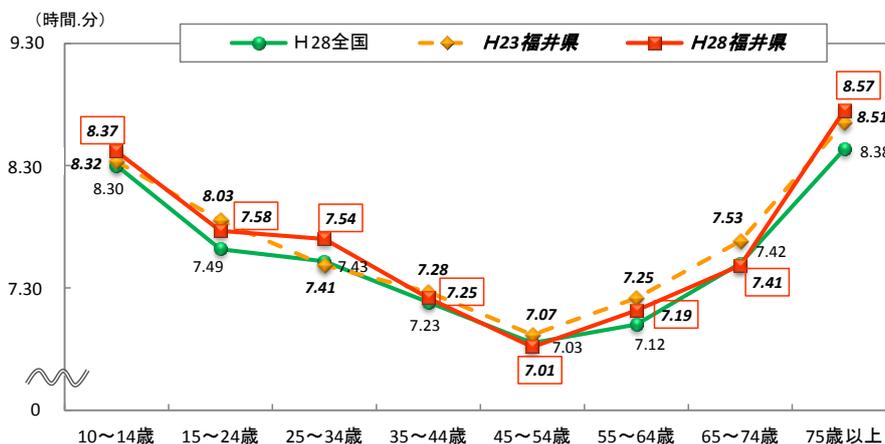


図5 年齢階級別睡眠時間 (平成23年、28年) 一週全体



平均時刻をみると、起床時刻は6時23分、就寝時刻は22時56分といずれも全国より早くなっている。男女別にみると、起床時刻は女性が男性より17分早く、就寝時刻は男女が同時刻となっており、男女とも起床および就寝時刻は全国より早い。〔表2〕

表2 男女別平均起床時刻および平均就寝時刻 (平成28年) ー平日
(時:分)

	起床			就寝		
	総数	男	女	総数	男	女
福井県	6:23	6:32	6:15	22:56	22:56	22:56
全国	6:32	6:40	6:24	23:12	23:16	23:08
全国との比較	▲9分	▲8分	▲9分	▲16分	▲20分	▲12分

(2) 食事

◆女性の朝食開始時刻が全国で最も早い

食事時間は1時間38分となり、10年前の平成18年から同時間で推移している。〔図6〕

男女別にみると、男性が1時間36分、女性が1時間41分と女性が男性より5分長い。〔図7〕

年齢階級別にみると、15～24歳が1時間23分と最も短く、55歳以上では年齢とともに時間が長くなり、75歳以上が2時間1分と最も長くなっている。〔図8〕

図6 食事時間の推移
(平成8年～28年) 一週全体

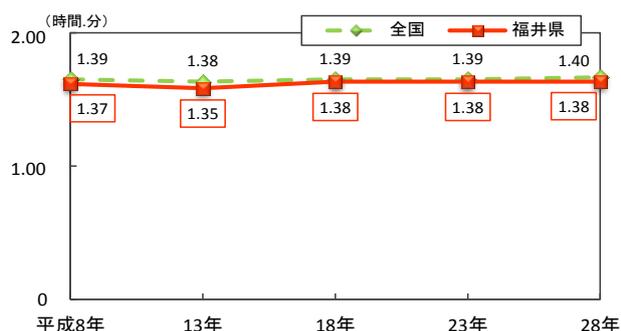


図7 男女別食事時間の推移
(平成8年～28年) 一週全体

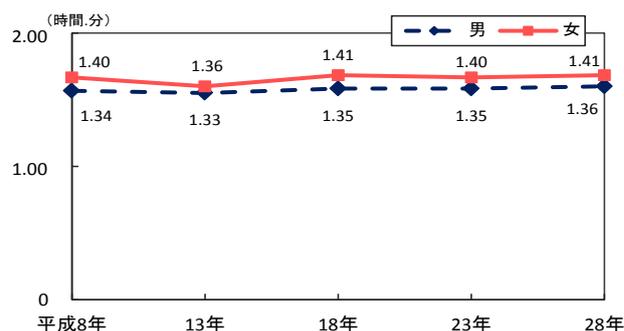
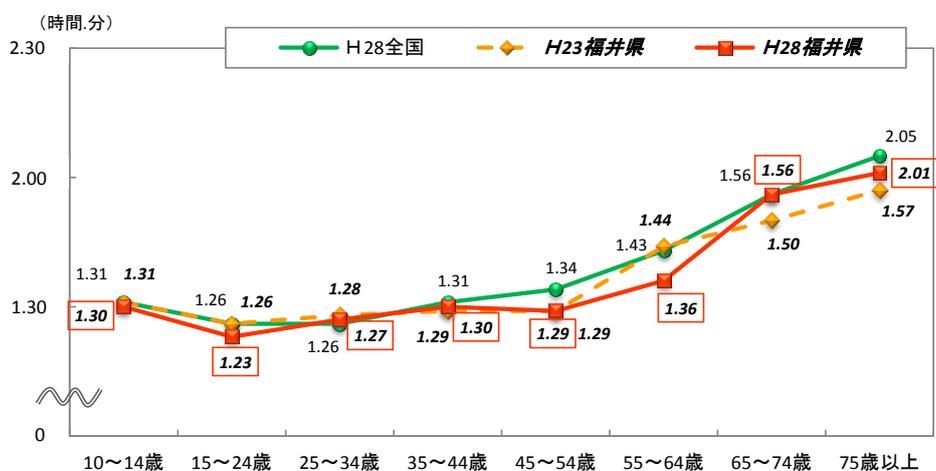


図8 年齢階級別食事時間 (平成23年、28年) 一週全体



平均時刻をみると、朝食開始時刻は6時59分、夕食開始時刻は18時57分といずれも全国より8分早くなっている。男女別では、朝食開始時刻は男性が6時56分、女性が7時1分となり、女性が男性より5分遅くなっているが、女性の朝食開始時刻は全国で最も早い。一方、夕食開始時刻は男性が19時6分、女性が18時50分となり、女性が男性より16分早くなっている。〔表3〕

表3 男女別平均朝食開始時刻および平均夕食開始時刻 (平成28年) ー平日

	朝食開始			夕食開始		
	総数	男	女	総数	男	女
福井県	6:59	6:56	7:01	18:57	19:06	18:50
全国	7:07	7:01	7:12	19:05	19:17	18:55
全国との比較	▲8分	▲5分	▲11分	▲8分	▲11分	▲5分

3 2次活動

(1) 仕事

◆女性有業者の仕事時間は減少

有業者（15歳以上。以下同じ。）についてみると、有業者数は43万3千人、有業率は66.0%となっており、平成23年と比べると、有業率が1.4ポイント上昇している。特に、女性の有業率が2.5ポイント上昇し58.6%となっており、全国第1位となった。〔表4〕

有業者の仕事時間は6時間8分となり、平成23年より2分減少したが、全国に比べ13分長くなっている。過去20年間の推移をみると、常に全国を上回っているが、全国と同様に減少傾向となっており、平成8年に比べ13分の減少となった。

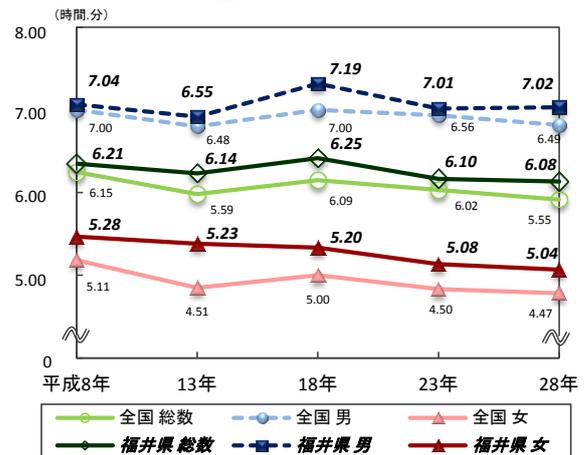
男女別にみると、男性が7時間2分、女性が5時間4分と男性が女性より約2時間長くなっており、平成23年と比べると、男性は1分の増加、女性は4分の減少となっている。過去20年間の推移をみると、平成8年に比べ、男性は2分の減少、女性は24分の減少となっており、女性の減少傾向が大きい。〔図9〕

表4 男女別有業者数および有業率
(平成23年、28年) 一週全体、15歳以上

		福井県			全国		
		平成23年	平成28年	増減	平成23年	平成28年	増減
有業者数 (千人)	総数	433	433	0	66,664	67,291	627
	男女	238	235	▲3	37,975	37,590	▲385
有業率 (%,増減は ポイント)	総数	64.6	66.0	1.4	61.7	62.6	0.9
	男女	73.7	73.7	0.0	72.6	72.1	▲0.5
	男女	56.1	58.6	2.5	51.6	53.7	2.1

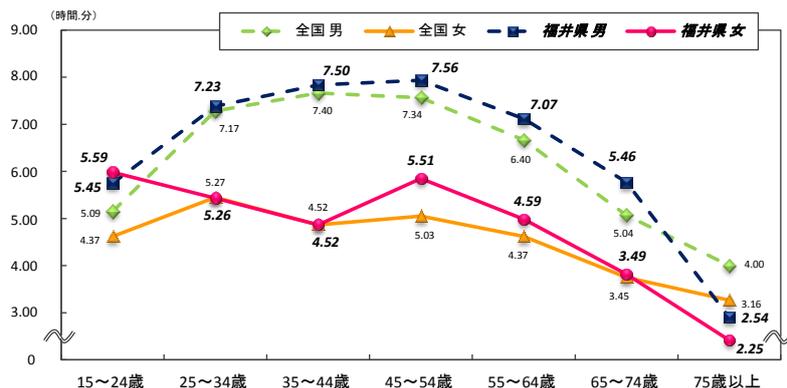
※有業率・・・人口に占める有業者の割合(ふだんの就業状態不詳を除き算出)

図9 男女別仕事時間の推移(平成8年～28年) 一週全体、有業者、15歳以上



年齢階級別にみると、男性は45～54歳、女性は15～24歳が最も長く、男女とも75歳以上が2時間台となり最も短くなっている。全国と比較すると、男性は、75歳未満のすべての年齢階級において全国を上回っており、特に65～74歳が5時間46分となり全国で2番目に長い。一方、75歳以上のみが全国を下回っており、全国で2番目に短くなっている。〔図10〕

図10 男女、年齢階級別仕事時間(平成28年) 一週全体、有業者、15歳以上



◆「正規の職員・従業員」および「正規の職員・従業員以外」ともに仕事時間が減少

有業者のうち雇用されている人の仕事時間を雇用形態別にみると、「正規の職員・従業員」が7時間、「正規の職員・従業員以外」が4時間27分となっている。平成23年と比べると、「正規の職員・従業員」は5分の減少、「正規の職員・従業員以外」は9分の減少となっている。全国と比較すると、「正規の職員・従業員」は9分短く、「正規の職員・従業員以外」は8分長くなっている。〔図11〕

男女別に平成23年と比べると、「正規の職員・従業員」は男性が6分の減少、女性が3分の減少、「正規の職員・従業員以外」は、男性は同時間だが女性が7分の減少となっており、男女、雇用形態にかかわらず、仕事時間は減少している。〔表5〕

図11 雇用形態別仕事時間（平成23年、28年）一週全体、雇用されている人、15歳以上

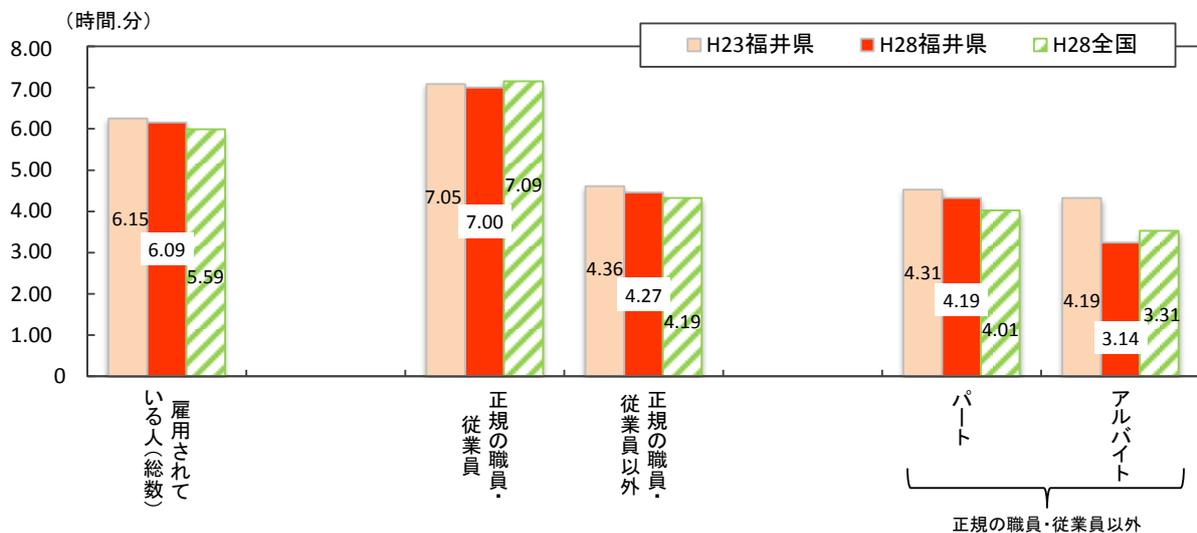


表5 男女、雇用形態別仕事時間（平成23年、28年）一週全体、雇用されている人、15歳以上

		平成23年		平成28年		増減	
		人口 (千人)	仕事時間 (時間.分)	人口 (千人)	仕事時間 (時間.分)	人口 (千人)	仕事時間 (時間.分)
総数	雇用されている人	346	6.15	355	6.09	9	▲ 0.06
	正規の職員・従業員	229	7.05	238	7.00	9	▲ 0.05
	正規の職員・従業員以外	117	4.36	117	4.27	0	▲ 0.09
	パート	58	4.31	60	4.19	2	▲ 0.12
	アルバイト	30	4.19	24	3.14	▲ 6	▲ 1.05
男	雇用されている人	182	7.03	186	7.03	4	0.00
	正規の職員・従業員	145	7.34	151	7.28	6	▲ 0.06
	正規の職員・従業員以外	38	5.10	34	5.10	▲ 4	0.00
	パート	6	5.01	6	4.36	0	▲ 0.25
	アルバイト	15	4.42	10	3.41	▲ 5	▲ 1.01
女	雇用されている人	163	5.20	170	5.11	7	▲ 0.09
	正規の職員・従業員	84	6.15	86	6.12	2	▲ 0.03
	正規の職員・従業員以外	79	4.19	83	4.12	4	▲ 0.07
	パート	51	4.26	54	4.23	3	▲ 0.03
	アルバイト	15	3.54	14	2.59	▲ 1	▲ 0.55

(2) 家事関連

◆家事関連時間は男性が増加傾向、男女差は縮小しているが依然として大きい

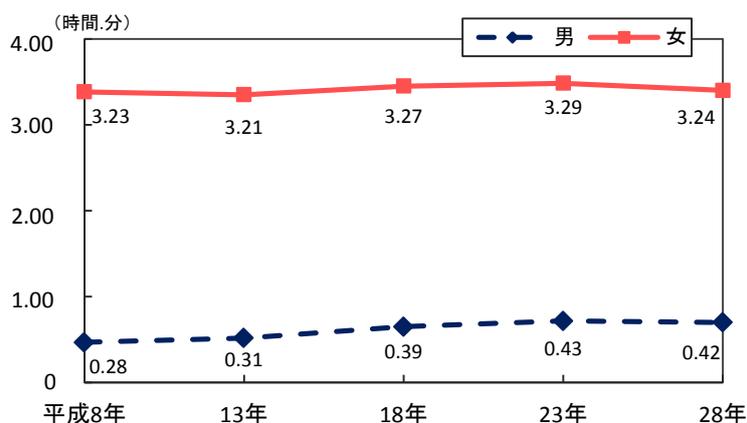
家事関連時間（「家事」、「介護・看護」、「育児」および「買い物」。以下同じ。）を男女別にみると、男性は42分、女性は3時間24分となり、平成23年に比べ、男性は1分の減少、女性は5分の減少となっている。

過去20年間の推移をみると、平成8年に比べ、男性は14分の増加、女性は1分の増加となっている。男女の差は2時間42分と平成8年の2時間55分に比べ13分縮小しているが、依然として差は大きい。〔表6、図12〕

表6 男女別家事関連時間の推移（平成8年～28年）一週全体

	福井県			全国		
	男	女	男女差	男	女	男女差
平成8年	0.28	3.23	▲ 2.55	0.24	3.34	▲ 3.10
平成13年	0.31	3.21	▲ 2.50	0.31	3.34	▲ 3.03
平成18年	0.39	3.27	▲ 2.48	0.38	3.35	▲ 2.57
平成23年	0.43	3.29	▲ 2.46	0.42	3.35	▲ 2.53
平成28年	0.42	3.24	▲ 2.42	0.44	3.28	▲ 2.44

図12 男女別家事関連時間の推移（平成8年～28年）一週全体



◆女性の家事時間が減少

家事関連時間の内訳を男女別にみると、男性は介護・看護時間が1分増加し、育児時間が2分減少している。一方、女性は家事時間が6分の減少と大きな減少がみられる。〔表7〕

表7 男女別家事関連時間（平成23年、28年）一週全体

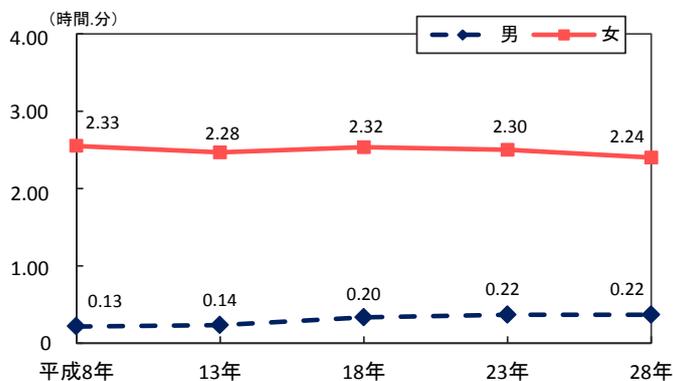
	男			女		
	平成23年	平成28年	増減	平成23年	平成28年	増減
家事関連	0.43	0.42	▲ 0.01	3.29	3.24	▲ 0.05
家事	0.22	0.22	0.00	2.30	2.24	▲ 0.06
介護・看護	0.01	0.02	0.01	0.05	0.08	0.03
育児	0.06	0.04	▲ 0.02	0.23	0.22	▲ 0.01
買い物	0.14	0.14	0.00	0.31	0.30	▲ 0.01

◆家事時間は男性が増加傾向、女性が減少傾向

家事関連時間のうち家事時間について、過去 20 年間の推移を男女別にみると、平成 8 年に比べ男性は 9 分の増加、女性は 9 分の減少となり、男性は増加傾向、女性は減少傾向となっている。

〔図 13〕

図 13 男女別家事時間の推移（平成 8 年～28 年）一週全体



◆家事時間は、15～44 歳において男性は増加、女性は減少

年齢階級別にみると、男性は 75 歳以上が 57 分と最も長く、女性は 55～74 歳が 3 時間 25 分と最も長くなっており、特に 75 歳以上の男性の家事時間は全国で最も長い。また、平成 23 年と比べると、15～44 歳においては、男性は増加し、女性は 10 分以上減少している。〔図 14、表 8〕

図 14 男女、年齢階級別家事時間（平成 28 年）一週全体

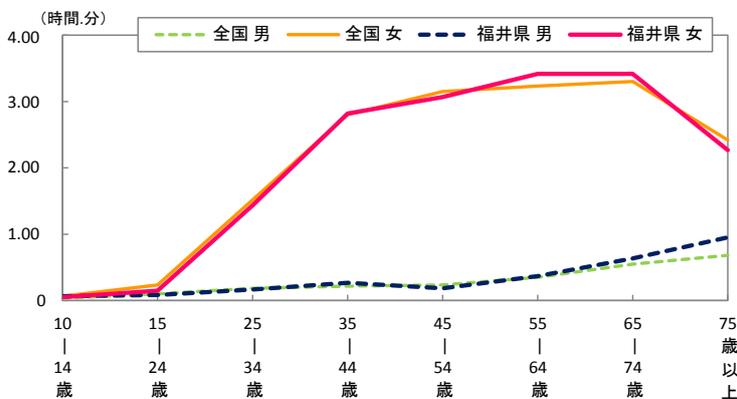


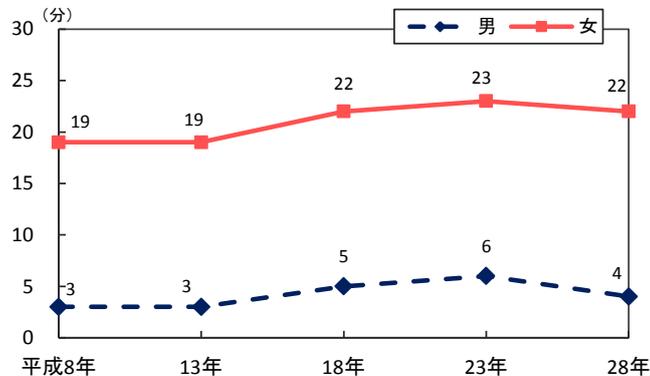
表 8 男女、年齢階級別家事時間（平成 28 年）一週全体

年齢階級	福井県				全国			
	男		女		男		女	
	絶対値	H23からの増減	絶対値	H23からの増減	絶対値	H23からの増減	絶対値	H23からの増減
総数	0.22	▲ 0.00	2.24	▲ 0.06	0.19	▲ 0.01	2.24	▲ 0.08
10～14歳	0.04	▲ 0.02	0.03	0.00	0.02	▲ 0.02	0.04	▲ 0.01
15～24歳	0.05	0.02	0.09	▲ 0.10	0.06	0.00	0.14	▲ 0.06
25～34歳	0.10	0.06	1.26	▲ 0.19	0.11	0.02	1.31	▲ 0.14
35～44歳	0.16	0.06	2.49	▲ 0.18	0.13	0.03	2.48	▲ 0.20
45～54歳	0.11	▲ 0.04	3.04	▲ 0.12	0.14	0.00	3.09	▲ 0.16
55～64歳	0.22	▲ 0.07	3.25	0.03	0.21	0.01	3.14	▲ 0.11
65～74歳	0.38	▲ 0.03	3.25	▲ 0.10	0.33	▲ 0.04	3.18	▲ 0.03
75歳以上	0.57	▲ 0.03	2.16	0.04	0.41	▲ 0.04	2.25	0.00

◆育児時間は男女とも減少

家事関連時間のうち育児時間について、過去 20 年間の推移を男女別にみると、前回調査の平成 23 年までは男女ともに増加傾向にあったが、平成 28 年は男女とも減少に転じている。〔図 15〕

図 15 男女別育児時間の推移（平成 8 年～28 年）一週全体



◆55～64 歳の女性の育児時間が全国第 1 位

年齢階級別にみると、男女とも 25～44 歳の育児時間が突出して長く、25～34 歳は男性が 14 分、女性が 1 時間 24 分と最も長くなっている。また、全国と比較すると、55～64 歳の女性の育児時間が 18 分と全国より 11 分長く、全国第 1 位となった。〔図 16、表 9〕

図 16 男女、年齢階級別育児時間（平成 28 年）一週全体

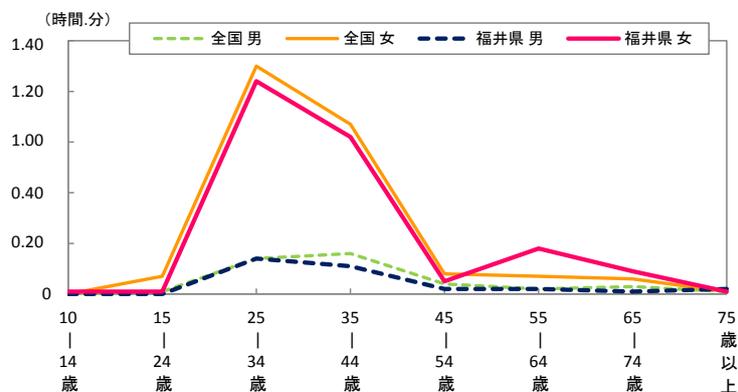


表 9 男女、年齢階級別育児時間（平成 28 年）一週全体

年齢階級	福井県				全国			
	男		女		男		女	
	H23からの増減		H23からの増減		H23からの増減		H23からの増減	
総数	0.04	▲ 0.02	0.22	▲ 0.01	0.06	0.01	0.24	0.01
10～14歳	-	-	0.01	-	0.00	0.00	0.00	0.00
15～24歳	0.00	▲ 0.02	0.01	▲ 0.13	0.01	0.00	0.07	▲ 0.03
25～34歳	0.14	0.01	1.24	0.05	0.14	0.02	1.30	0.15
35～44歳	0.11	▲ 0.06	1.02	0.09	0.16	0.04	1.07	0.09
45～54歳	0.02	▲ 0.01	0.05	▲ 0.01	0.04	0.01	0.08	0.00
55～64歳	0.02	0.00	0.18	0.04	0.02	0.00	0.07	0.00
65～74歳	0.01	▲ 0.08	0.09	▲ 0.02	0.03	0.01	0.06	0.02
75歳以上	0.02	0.01	0.01	▲ 0.01	0.01	0.00	0.01	▲ 0.01

◆女性の介護・看護時間が増加

家事関連時間のうち介護・看護時間について、過去 20 年間の推移を男女別にみると、平成 23 年までは男女とも横ばいであったが、平成 28 年は女性が大きく増加している。〔図 17〕

年齢階級別にみると、平成 23 年に比べ、女性は 25 歳以上のすべての年齢階級において増加している。〔図 18〕

図 17 介護・看護時間の推移
(平成 8 年～28 年) 一週全体

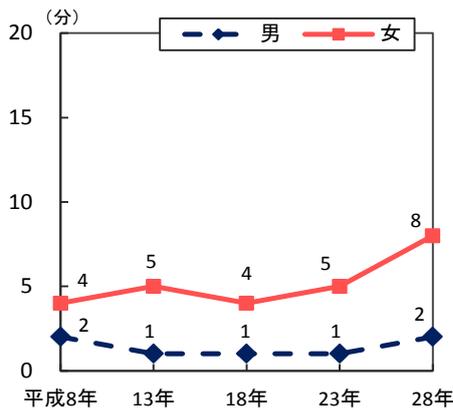
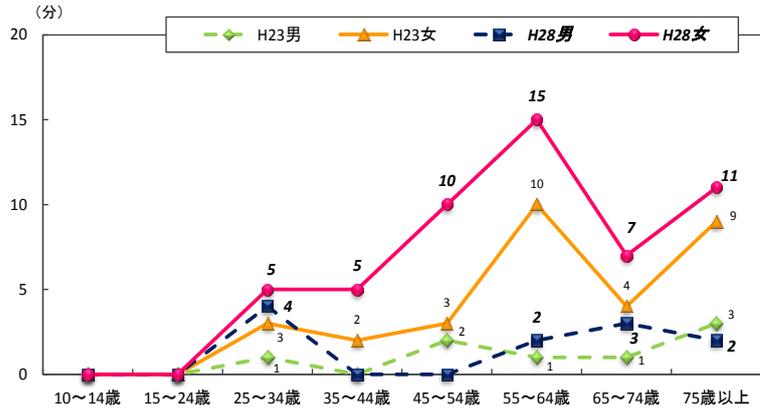


図 18 男女、年齢階級別介護・看護時間
(平成 23 年、28 年) 一週全体



◆ふだん家族を介護している人の約 6 割が女性、約 6 割が 60 歳以上

15 歳以上でふだん家族を介護している人 (以下「介護者」という。) は 3 万 7 千人となり、平成 23 年と比べ 6 千人減少した。男女別にみると、男性が 1 万 4 千人、女性が 2 万 3 千人となっており、女性が介護者全体の約 6 割を占めている。また、年齢階級別にみると、60 歳以上の介護者が 2 万 2 千人となり、介護者全体の約 6 割を占めている。

介護者のうち、調査当日に実際に介護・看護を行った人の平均時間 (行動者平均時間) は、男性が 2 時間 6 分、女性が 2 時間 52 分と女性が男性より長く、男女ともに平成 23 年より増加している。〔表 10〕

表 10 男女、年齢階級別介護者数および行動者平均時間 (平成 23 年、28 年) 一週全体、15 歳以上

	介護者数									行動者平均時間			
	平成23年			平成28年			増減			平成23年	平成28年	増減	
	実数 (千人)	人口比 (%)	構成比 (%)	実数 (千人)	人口比 (%)	構成比 (%)	実数 (千人)	人口比 (ポイント)	構成比 (ポイント)	(時間:分)	(時間:分)	(時間:分)	
総数	43	6.4	100.0	37	5.6	100.0	▲ 6	▲ 0.8	▲ 0.0	2.27	2.50	▲ 0.23	
40～49歳	4	4.1	9.3	2	1.9	5.4	▲ 2	▲ 2.2	▲ 3.9	1.44	7.03	▲ 5.19	
50～59歳	13	12.6	30.2	11	11.6	29.7	▲ 2	▲ 1.0	▲ 0.5	1.48	1.59	▲ 0.11	
60～69歳	13	11.4	30.2	14	11.9	37.8	▲ 1	▲ 0.5	▲ 7.6	2.30	3.06	▲ 0.36	
70歳以上	9	6.5	20.9	8	5.6	21.6	▲ 1	▲ 0.9	▲ 0.7	3.47	3.33	▲ 0.14	
男	17	5.3	39.5	14	4.4	37.8	▲ 3	▲ 0.9	▲ 1.7	2.00	2.06	▲ 0.06	
40～49歳	2	4.1	4.7	1.55	
50～59歳	4	7.8	9.3	3	6.4	8.1	▲ 1	▲ 1.4	▲ 1.2	1.22	1.17	▲ 0.05	
60～69歳	7	12.5	16.3	6	10.3	16.2	▲ 1	▲ 2.2	▲ 0.1	1.19	2.45	▲ 1.26	
70歳以上	3	5.3	7.0	3	4.9	8.1	0	▲ 0.4	▲ 1.1	2.13	1.21	▲ 0.52	
女	26	7.5	60.5	23	6.8	62.2	▲ 3	▲ 0.7	▲ 1.7	2.50	2.52	▲ 0.02	
40～49歳	3	6.0	7.0	2	3.8	5.4	▲ 1	▲ 2.2	▲ 1.6	1.19	7.03	▲ 5.44	
50～59歳	8	15.7	18.6	7	14.6	18.9	▲ 1	▲ 1.1	▲ 0.3	1.56	2.06	▲ 0.10	
60～69歳	7	11.9	16.3	8	13.3	21.6	▲ 1	▲ 1.4	▲ 5.3	2.56	2.54	▲ 0.02	
70歳以上	6	7.3	14.0	5	6.0	13.5	▲ 1	▲ 1.3	▲ 0.5	3.57	4.36	▲ 0.39	

4 3次活動

(1) テレビ・ラジオ・新聞・雑誌

◆テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間は減少傾向

テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間は2時間2分となり、平成23年より16分減少しており、全国では、最も短い東京都の1時間55分に次いで短くなっている。また、過去20年間の推移をみると、全国と同様に減少傾向となっており、平成8年に比べ25分減少している。〔図19〕

男女別にみると、男性が女性より長く、過去20年間では男女ともに減少傾向となっている。〔図20〕

図19 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間の推移（平成8年～28年）一週全体

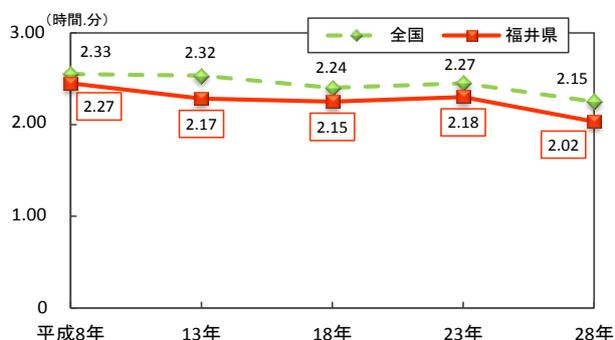
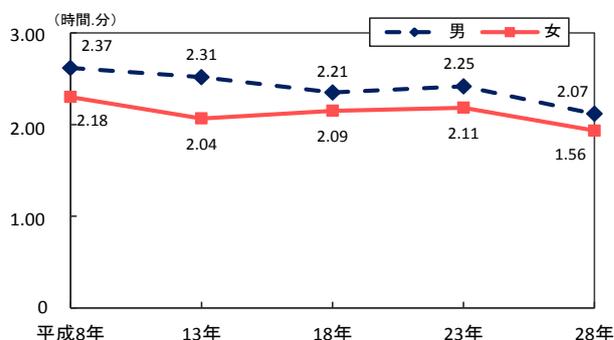


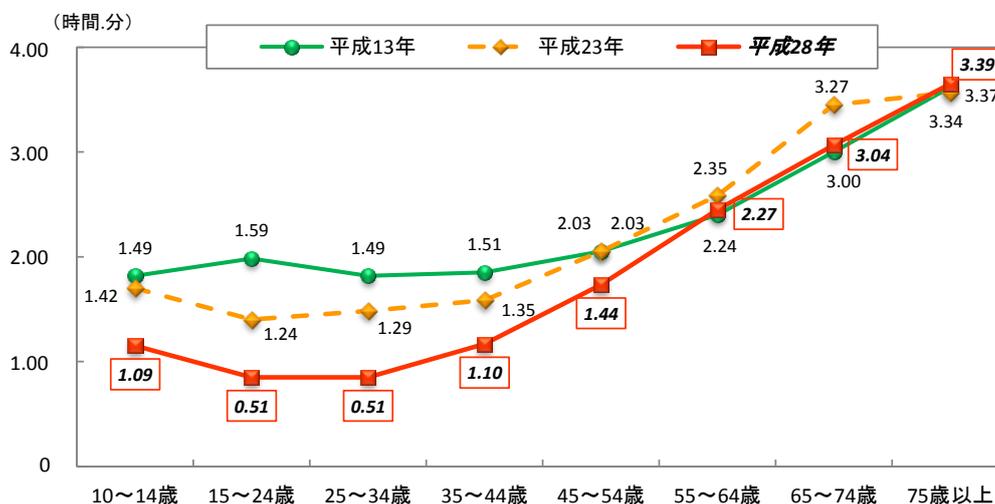
図20 男女別テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間の推移（平成8年～28年）一週全体



◆過去15年間に於いて、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間は55歳未満が減少傾向

年齢階級別に比較可能な平成13年からの推移をみると、15年前（平成13年）および5年前（平成23年）と比べ、55歳未満のすべての年齢階級において年々減少している。特に15～34歳は、平成28年は1時間を切り51分となっており、平成13年に比べ約1時間の減少と大幅に減少した。一方、55歳以上は変動が少ないため、若年層と高齢層の差が拡大している。〔図21〕

図21 年齢階級別テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間の推移（平成13年、23年、28年）一週全体



(2) 休養・くつろぎ

◆休養・くつろぎの時間は増加傾向

休養・くつろぎの時間は1時間38分となり、平成23年より3分増加している。過去20年間の推移をみると、全国と同様に増加傾向となっており、平成8年に比べ25分増加している。

〔図22〕

男女別にみると、平成23年までは女性が男性より長くなっていたが、平成28年は男性が女性より7分長くなっている。〔図23〕

図22 休養・くつろぎの時間の推移
(平成8年～28年) 一週全体

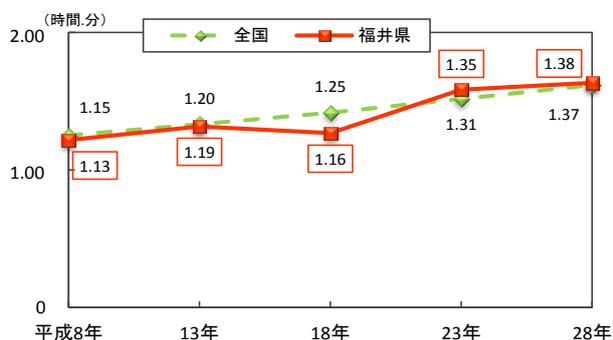
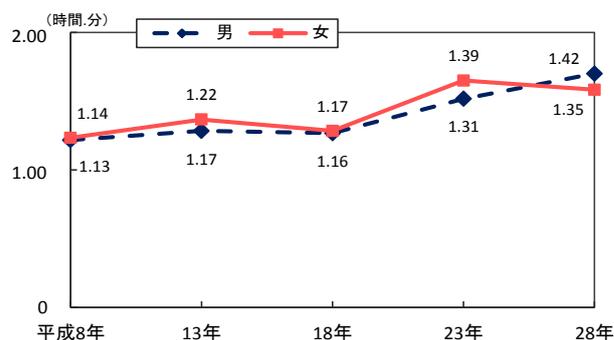


図23 男女別休養・くつろぎの時間の推移
(平成8年～28年) 一週全体

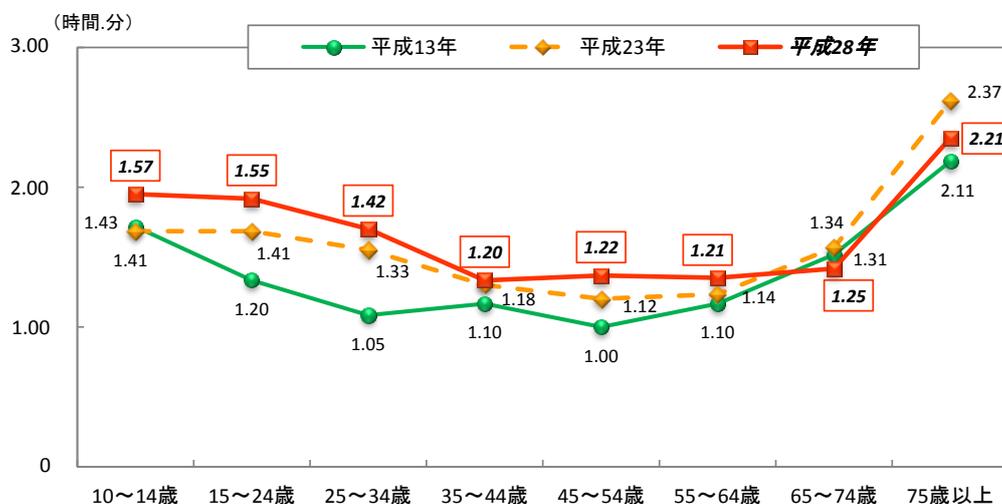


◆過去15年間に於いて、休養・くつろぎの時間は65歳未満が増加傾向

年齢階級別に比較可能な平成13年からの推移をみると、15年前(平成13年)および5年前(平成23年)と比べ、65歳未満のすべての年齢階級において年々増加している傾向がみられる。

〔図24〕

図24 年齢階級別休養・くつろぎの時間の推移(平成13年、23年、28年) 一週全体



(3) スポーツ

◆75歳以上の男性のスポーツ時間が全国第1位

スポーツ時間は15分となり、平成23年より1分増加しているが、過去20年間の推移をみると、全国と同様に横ばいとなっている。〔図25〕

男女別にみると、男性が女性を上回っており、平成28年は男性が女性より8分長い。〔図26〕

図25 スポーツ時間の推移
(平成8年～28年) 一週全体

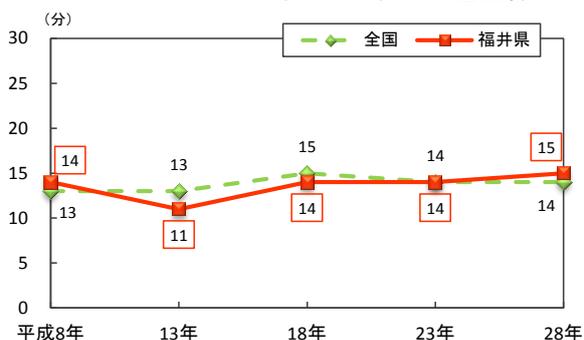
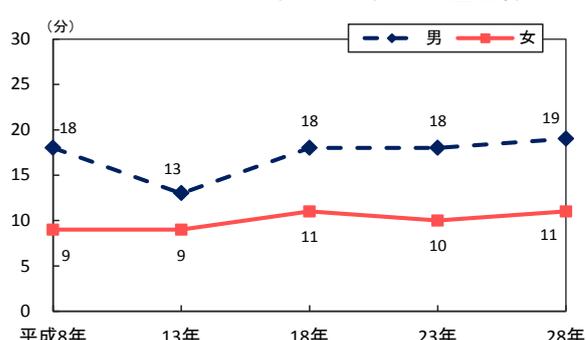


図26 男女別スポーツ時間の推移
(平成8年～28年) 一週全体



年齢階級別にみると、男女とも10～14歳が最も長く、男性は25～34歳、女性は25～34歳および45～54歳が最も短くなっている。全国と比較すると、75歳以上の男性が28分と全国より8分長く全国第1位となったほか、45～54歳の男性が15分と全国より5分長く全国第2位となった。〔図27、表11〕

図27 男女、年齢階級別スポーツ時間 (平成28年) 一週全体

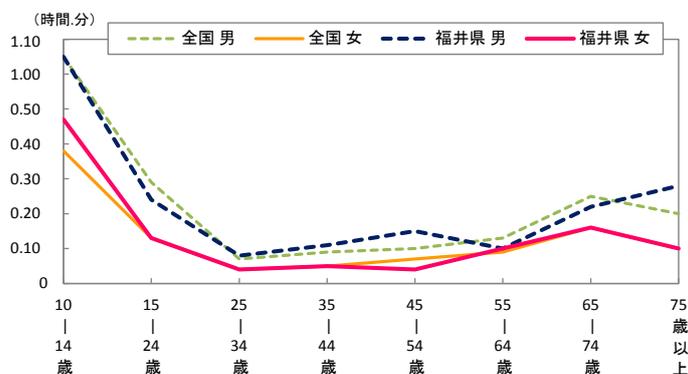


表11 男女、年齢階級別スポーツ時間 (平成28年) 一週全体

年齢階級	福井県				全国			
	男		女		男		女	
	H23からの増減		H23からの増減		H23からの増減		H23からの増減	
総数	0.19	0.01	0.11	0.01	0.18	0.00	0.10	▲ 0.01
10～14歳	1.05	▲ 0.04	0.47	0.05	1.05	0.02	0.38	0.02
15～24歳	0.24	▲ 0.04	0.13	▲ 0.05	0.29	0.04	0.13	0.01
25～34歳	0.08	▲ 0.02	0.04	0.00	0.07	▲ 0.01	0.04	▲ 0.01
35～44歳	0.11	▲ 0.01	0.05	▲ 0.01	0.09	0.01	0.05	▲ 0.01
45～54歳	0.15	0.06	0.04	▲ 0.03	0.10	0.00	0.07	▲ 0.01
55～64歳	0.10	▲ 0.04	0.10	0.00	0.13	▲ 0.02	0.09	▲ 0.02
65～74歳	0.22	▲ 0.03	0.16	0.02	0.25	▲ 0.03	0.16	▲ 0.01
75歳以上	0.28	0.15	0.10	0.05	0.20	0.02	0.10	0.03

(4) ボランティア活動・社会参加活動

◆ボランティア活動・社会参加活動時間は男女とも 65～74 歳が最も長い

ボランティア活動・社会参加活動時間は 6 分となり、全国より 2 分長く全国第 3 位となった。平成 23 年と比べ 2 分増加しているが、過去 20 年間の推移をみると横ばいとなっている。〔図 28〕
男女別にみると、男性が 6 分、女性が 5 分と男性が女性より 1 分長くなっている。〔図 29〕

図 28 ボランティア活動・社会参加活動時間の推移（平成 8 年～28 年）—週全体

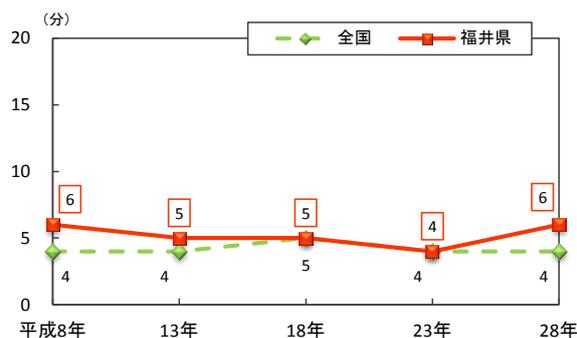
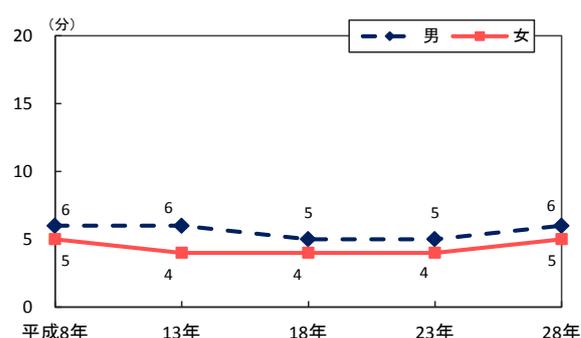


図 29 男女別ボランティア活動・社会参加活動時間の推移（平成 8 年～28 年）—週全体



注) 平成 8 年は「社会的活動」として調査

年齢階級別にみると、男女とも 65～74 歳が 15 分と最も長くなっており、平成 23 年に比べ、男性は 7 分の増加、女性は 10 分の増加と大きく増加している。特に 65～74 歳の女性は、全国より 8 分長く全国第 1 位となっている。〔図 30、表 12〕

図 30 男女、年齢階級別ボランティア活動・社会参加活動時間（平成 28 年）—週全体

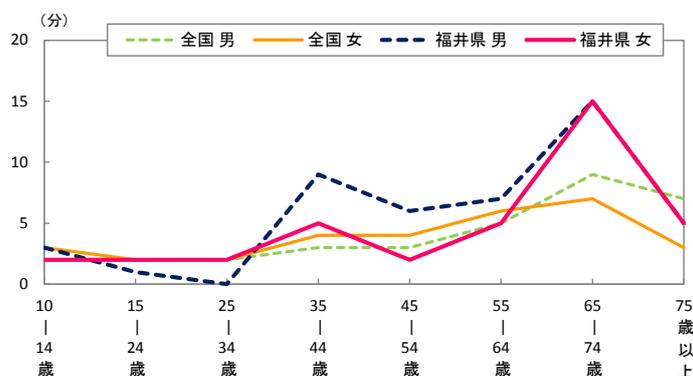


表 12 男女、年齢階級別ボランティア活動・社会参加活動時間（平成 28 年）—週全体

(時間、分)

年齢階級	福井県				全国			
	男		女		男		女	
	H23からの増減		H23からの増減		H23からの増減		H23からの増減	
総数	0.06	0.01	0.05	0.01	0.04	0.00	0.04	0.00
10～14歳	0.03	0.02	0.02	▲0.04	0.02	0.00	0.03	0.01
15～24歳	0.01	0.00	0.02	-	0.02	0.00	0.02	0.01
25～34歳	0.00	▲0.04	0.02	0.01	0.02	0.00	0.02	▲0.01
35～44歳	0.09	0.06	0.05	0.02	0.03	0.00	0.04	▲0.01
45～54歳	0.06	0.00	0.02	0.00	0.03	▲0.01	0.04	0.00
55～64歳	0.07	0.00	0.05	▲0.01	0.05	0.01	0.06	0.01
65～74歳	0.15	0.07	0.15	0.10	0.09	0.00	0.07	0.00
75歳以上	0.05	0.01	0.05	0.00	0.07	0.02	0.03	0.00

5 夫と妻の生活時間

(1) 6歳未満の子供がいる世帯（夫婦と子供の世帯）

◆6歳未満の子供がいる世帯の夫の家事時間が全国第1位

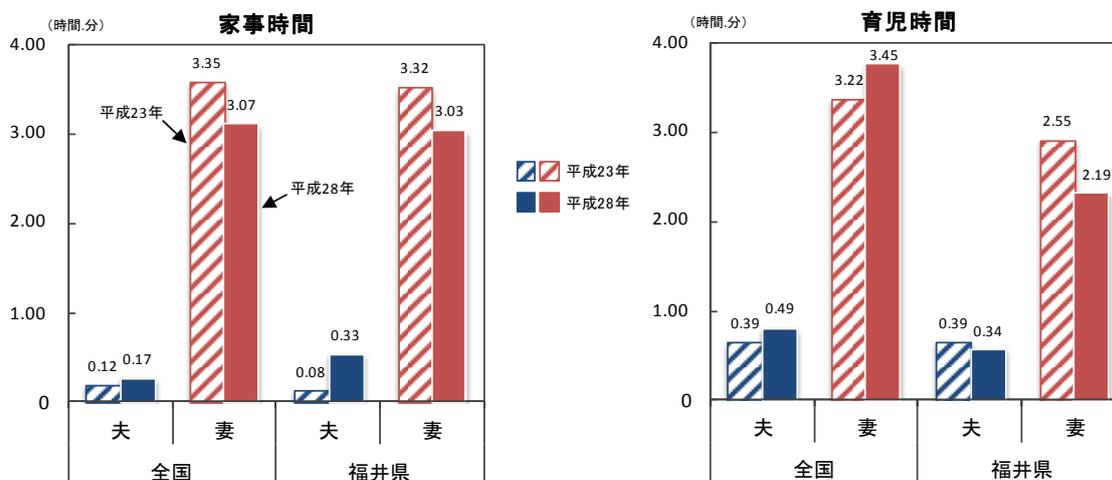
子供がいる世帯のうち、6歳未満の子供がいる世帯について、夫と妻の家事関連時間をみると、平成23年に比べ、夫の家事時間は25分増加し33分、育児時間は5分減少し34分となっている。一方、妻の家事時間は29分減少し3時間3分、育児時間は36分減少し2時間19分となっている。全国と比較すると、夫の家事時間が全国より16分長く、全国第1位となっている。〔表13、図31〕

表13 6歳未満の子供を持つ夫・妻の家事関連時間（平成23年、28年）
一週全体、夫婦と子供の世帯

		福井県			全国			全国との比較	
		平成23年	平成28年	増減	平成23年	平成28年	増減	平成23年	平成28年
夫	家事関連	0.57	1.21	0.24	1.07	1.23	0.16	▲0.10	▲0.02
	家事	0.08	0.33	0.25	0.12	0.17	0.05	▲0.04	0.16
	介護・看護	0.01	0.02	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01
	育児	0.39	0.34	▲0.05	0.39	0.49	0.10	0.00	▲0.15
	買い物	0.09	0.12	0.03	0.16	0.16	0.00	▲0.07	▲0.04
妻	家事関連	7.03	6.04	▲0.59	7.41	7.34	▲0.07	▲0.38	▲1.30
	家事	3.32	3.03	▲0.29	3.35	3.07	▲0.28	▲0.03	▲0.04
	介護・看護	0.02	0.10	0.08	0.03	0.06	0.03	▲0.01	0.04
	育児	2.55	2.19	▲0.36	3.22	3.45	0.23	▲0.27	▲1.26
	買い物	0.34	0.32	▲0.02	0.41	0.36	▲0.05	▲0.07	▲0.04

(時間.分)

図31 6歳未満の子供を持つ夫・妻の家事時間および育児時間（平成23年、28年）
一週全体、夫婦と子供の世帯



(2) 共働き世帯

◆共働き世帯の夫の家事関連時間が増加傾向

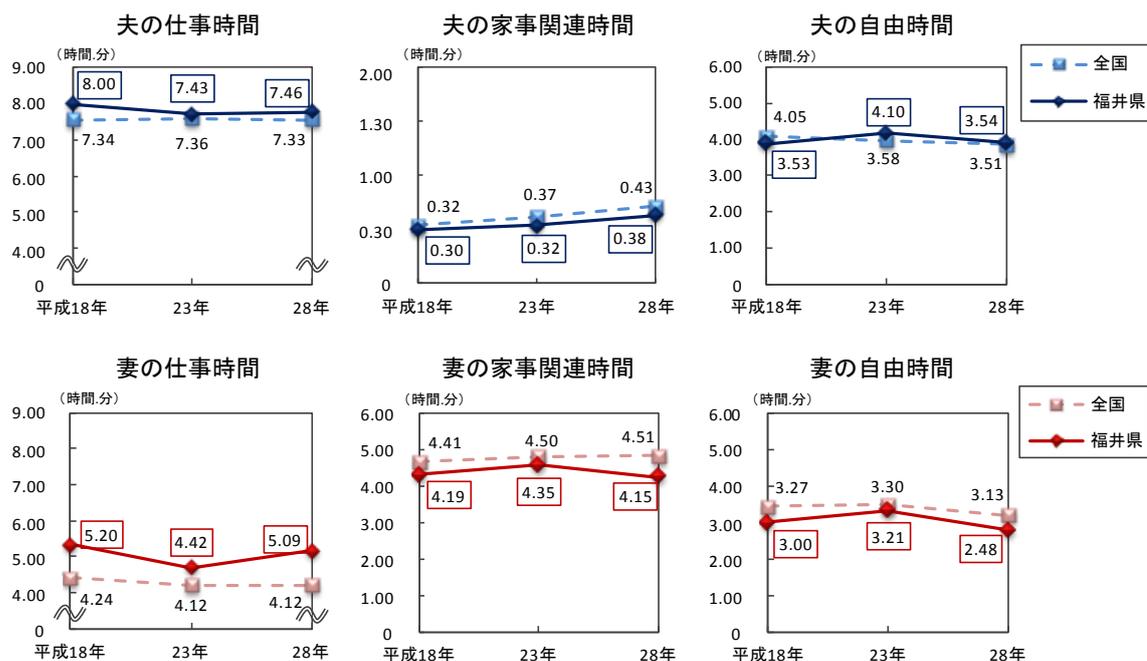
子供のいる世帯のうち、共働き世帯について、夫と妻の生活時間をみると、平成23年に比べ、夫は家事関連時間が6分増加し、自由時間¹⁾が16分減少している。一方、妻は、仕事時間が27分増加したのに対し、家事関連時間が20分減少し、自由時間が33分減少している。過去10年間の推移をみると、夫の家事関連時間が全国と同様に増加傾向となっている。

夫婦の差をみると、仕事時間は夫が妻より2時間37分長く、家事関連時間は妻が夫より3時間37分長くなっている。平成23年に比べいずれも約25分縮小しているが、依然として仕事時間の差以上に家事関連時間の差が大きい。〔表14、図32〕

表14 共働き世帯の夫・妻の行動の種類別生活時間（平成23年、28年）
一週全体、子供のいる世帯の夫・妻

		福井県			全国			全国との比較	
		平成23年	平成28年	増減	平成23年	平成28年	増減	平成23年	平成28年
夫	仕事	7.43	7.46	0.03	7.36	7.33	▲0.03	0.07	0.13
	家事関連	0.32	0.38	0.06	0.37	0.43	0.06	▲0.05	▲0.05
	うち家事	0.10	0.15	0.05	0.12	0.14	0.02	▲0.02	0.01
	育児	0.13	0.09	▲0.04	0.11	0.14	0.03	0.02	▲0.05
	自由時間	4.10	3.54	▲0.16	3.58	3.51	▲0.07	0.12	0.03
妻	仕事	4.42	5.09	0.27	4.12	4.12	0.00	0.30	0.57
	家事関連	4.35	4.15	▲0.20	4.50	4.51	0.01	▲0.15	▲0.36
	うち家事	3.18	2.58	▲0.20	3.26	3.16	▲0.10	▲0.08	▲0.18
	育児	0.38	0.37	▲0.01	0.43	0.53	0.10	▲0.05	▲0.16
	自由時間	3.21	2.48	▲0.33	3.30	3.13	▲0.17	▲0.09	▲0.25
夫婦差	3.01	2.37	▲0.24	3.24	3.21	▲0.03	▲0.23	▲0.44	
家事関連	▲4.03	▲3.37	▲0.26	▲4.13	▲4.08	▲0.05	▲0.10	▲0.31	
自由時間	0.49	1.06	0.17	0.28	0.38	0.10	0.21	0.28	

図32 共働き世帯の夫・妻の行動の種類別生活時間の推移（平成18年～28年）
一週全体、子供のいる世帯の夫・妻



1) 「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」、「休養・くつろぎ」、「学習・自己啓発・訓練（学業以外）」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」および「ボランティア活動・社会参加活動」

6 高齢者の生活時間

◆高齢者の仕事時間が男女ともに増加

65歳以上の高齢者の生活時間について、平成23年と比べると、仕事時間が21分の増加と最も大きく増加しており、休養・くつろぎの時間が15分の減少と最も大きく減少している。また、受診・療養の時間が14分の減少、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間が10分の減少などとなっており、特にテレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間は3時間21分と全国より36分短く、全国で最も短くなっている。

なお、ボランティア活動・社会参加活動時間が10分と全国より4分長く、全国第1位となった。

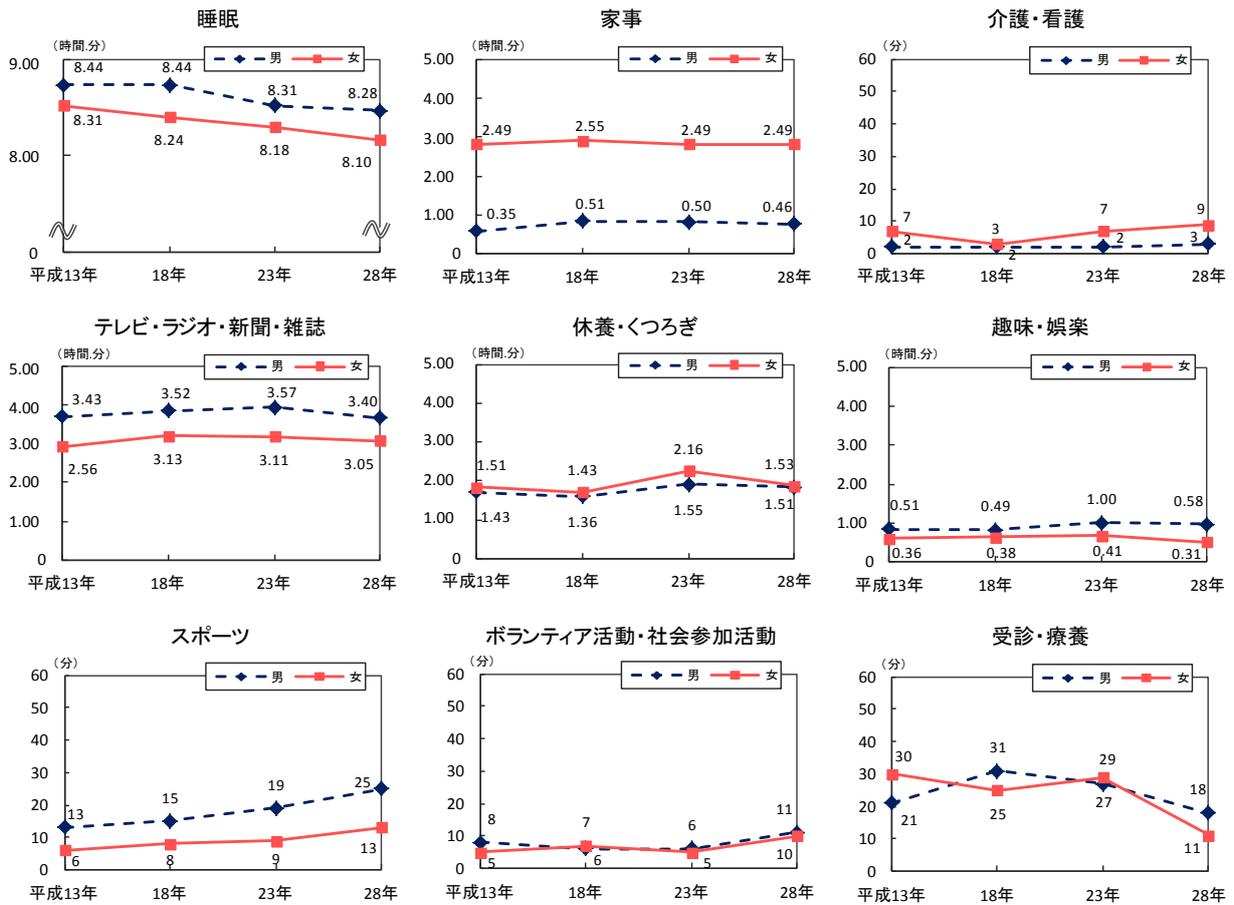
男女別にみると、平成23年に比べ、男女とも仕事時間が最も大きく増加しており、男性はテレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間が17分の減少、女性は休養・くつろぎの時間が23分の減少と最も大きく減少している。〔表15〕

また、主な行動の種類について、過去15年間の推移をみると、睡眠時間が減少傾向となっており、一方、スポーツ時間が増加傾向となっている。〔図33〕

表15 65歳以上の男女、行動の種類別生活時間（平成23年、28年）一週全体

	総数			男			女		
	平成23年	平成28年	増減	平成23年	平成28年	増減	平成23年	平成28年	増減
1次活動	11.45	11.49	0.04	11.45	11.48	0.03	11.46	11.49	0.03
睡眠	8.24	8.18	▲0.06	8.31	8.28	▲0.03	8.18	8.10	▲0.08
身の回りの用事	1.28	1.33	0.05	1.23	1.21	▲0.02	1.32	1.42	0.10
食事	1.54	1.58	0.04	1.51	2.00	0.09	1.56	1.57	0.01
2次活動	3.49	4.12	0.23	3.18	3.30	0.12	4.12	4.45	0.33
通勤・通学	0.04	0.06	0.02	0.06	0.08	0.02	0.02	0.05	0.03
仕事	1.12	1.33	0.21	1.55	2.09	0.14	0.39	1.05	0.26
学業	0.00	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01
家事関連	2.33	2.31	▲0.02	1.16	1.14	▲0.02	3.30	3.35	0.05
家事	1.58	1.54	▲0.04	0.50	0.46	▲0.04	2.49	2.49	0.00
介護・看護	0.05	0.06	0.01	0.02	0.03	0.01	0.07	0.09	0.02
育児	0.06	0.03	▲0.03	0.05	0.02	▲0.03	0.06	0.05	▲0.01
買い物	0.24	0.28	0.04	0.19	0.23	0.04	0.28	0.32	0.04
3次活動	8.26	7.59	▲0.27	8.57	8.41	▲0.16	8.03	7.26	▲0.37
移動(通勤・通学を除く)	0.25	0.23	▲0.02	0.27	0.25	▲0.02	0.24	0.22	▲0.02
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	3.31	3.21	▲0.10	3.57	3.40	▲0.17	3.11	3.05	▲0.06
休養・くつろぎ	2.07	1.52	▲0.15	1.55	1.51	▲0.04	2.16	1.53	▲0.23
学習・自己啓発・訓練(学業以外)	0.06	0.08	0.02	0.07	0.10	0.03	0.06	0.07	0.01
趣味・娯楽	0.49	0.43	▲0.06	1.00	0.58	▲0.02	0.41	0.31	▲0.10
スポーツ	0.13	0.18	0.05	0.19	0.25	0.06	0.09	0.13	0.04
ボランティア活動・社会参加活動	0.06	0.10	0.04	0.06	0.11	0.05	0.05	0.10	0.05
交際・付き合い	0.17	0.21	0.04	0.18	0.17	▲0.01	0.17	0.25	0.08
受診・療養	0.28	0.14	▲0.14	0.27	0.18	▲0.09	0.29	0.11	▲0.18
その他	0.22	0.27	0.05	0.20	0.26	0.06	0.24	0.29	0.05

図 3 3 65 歳以上の男女、主な行動の種類別生活時間の推移（平成 13 年～28 年）一週全体



◆高齢者の有業率が上昇

65 歳以上の高齢者の有業者数は 7 万人、有業率は 33.5% となり、平成 23 年と比べると、有業者数は 2 万 3 千人増加し、有業率は 8.1 ポイント上昇した。男女別に平成 23 年と比べると、有業率は男性が 6 ポイント、女性が 9.4 ポイント上昇している。〔表 16〕

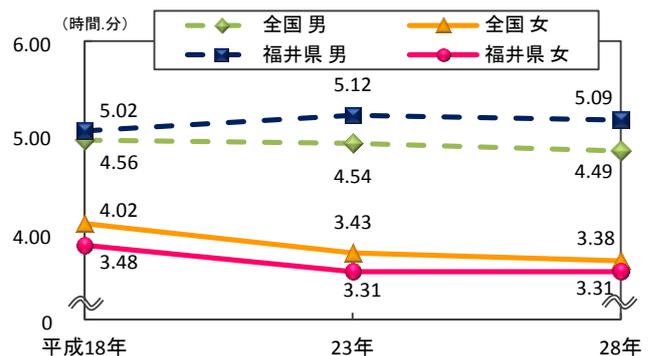
また、65 歳以上の有業者の仕事時間を男女別にみると、男性が 5 時間 9 分、女性が 3 時間 31 分となり、平成 23 年に比べ男性の仕事時間が減少している。10 年前の平成 18 年からの推移をみると、男性は常に全国を上回っており、女性は常に全国を下回っている。〔図 34〕

表 1 6 65 歳以上の男女別有業者数および有業率（平成 23 年、28 年）一週全体

		福井県			全国		
		平成23年	平成28年	増減	平成23年	平成28年	増減
有業者数 (千人)	総数	47	70	23	7,085	9,071	1,986
	男	28	39	11	4,242	5,350	1,108
	女	18	31	13	2,843	3,721	878
有業率 (%,増減は ポイント)	総数	25.4	33.5	8.1	25.8	28.7	2.9
	男	35.9	41.9	6.0	35.6	38.3	2.7
	女	17.1	26.5	9.4	18.3	21.0	2.7

※有業率…人口に占める有業者の割合(ふだんの就業状態不詳を除き算出)

図 3 4 65 歳以上の有業者の男女別仕事時間の推移（平成 18 年～28 年）一週全体

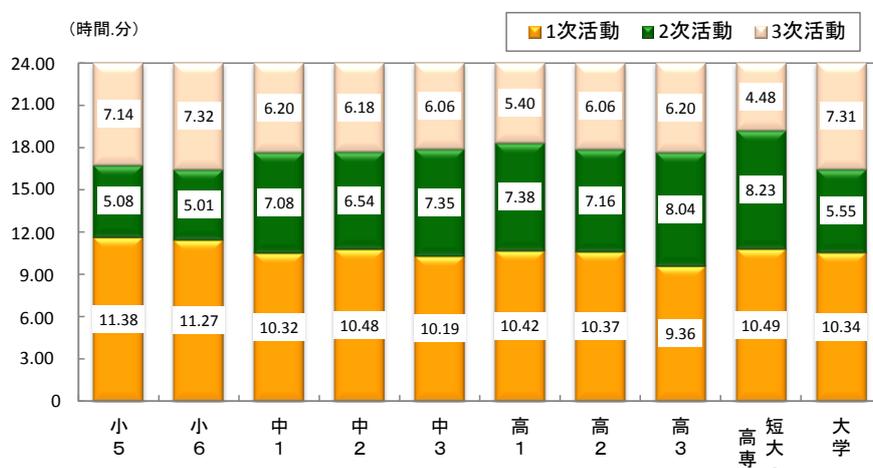


7 在学者の生活時間

◆2次活動時間が最も長く、3次活動時間が最も短い短大・高専生

在学者（10歳以上、以下同じ。）について、生活時間を在学する学校の種類・学年別にみると、1次活動時間は、小学生が11時間台と長く、高校3年生が9時間36分と最も短くなっている。また、2次活動時間は、短大・高専生が8時間23分と最も長く、小学生および大学生が5時間台と短くなっている。一方、3次活動時間は、小学生および大学生が7時間台と長く、短大・高専生が4時間48分と最も短くなっている。小学生と大学生においては、2次活動時間が3次活動時間より短い、中学生、高校生および短大・高専生においては、2次活動時間が3次活動時間より長くなっている。〔図35〕

図35 在学する学校の種類・学年、行動の種類別生活時間（平成28年）—週全体、在学者



◆学習時間は高校3年生が最も長い

在学者の学習時間をみると、高校3年生が6時間57分と最も長く、次いで中学3年生が6時間40分などとなっている。全国と比較すると、中学生以上では全国を上回っている。〔図36〕

男女別にみると、男性は高校3年生が8時間25分と最も長く、女性は中学3年生が7時間9分と最も長くなっている。中学1年生と3年生、高校2年生および大学生では女性が男性より長く、それ以外では男性が長くなっている。〔図37〕

図36 在学する学校の種類・学年別学習時間（平成28年）—週全体、在学者

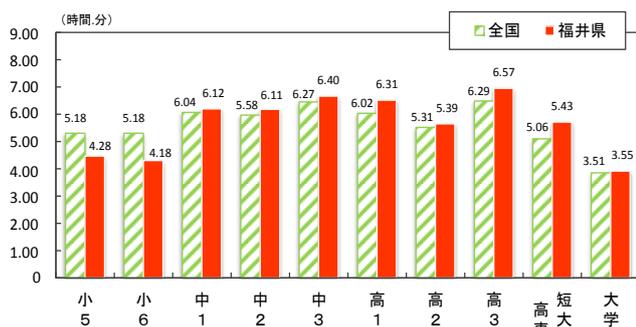
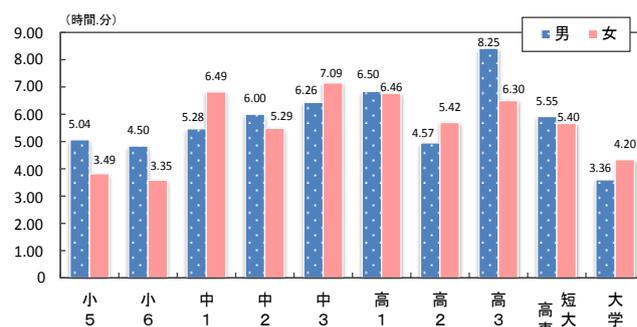


図37 在学する学校の種類・学年、男女別学習時間（平成28年）—週全体、在学者



8 スマートフォン・パソコンなどの使用状況

◆50%以上の人がスマートフォン・パソコンなどを使用している

スマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合¹⁾（以下「使用割合」という。）は、男性が57.6%、女性が55.3%となっており、男女ともに全国より低い。

男女、年齢階級別にみると、男性は20～24歳、女性は25～29歳の使用割合が最も高く、ともに94.1%となっている。50歳代までは男女とも50%を超えており、10歳代および50歳代では女性の使用割合が男性より高く、60歳代では男性が高くなっている。〔図38、表17〕

図38 男女、年齢階級別スマートフォン・パソコンなどの使用割合（平成28年）—週全体

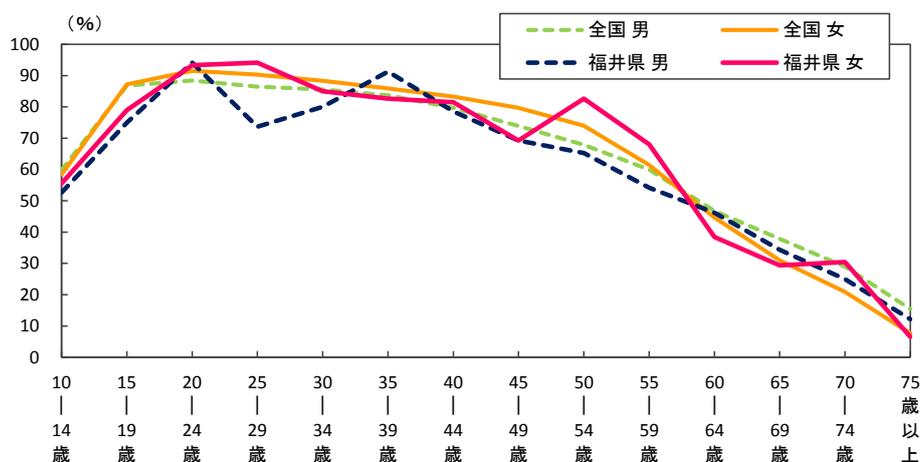


表17 男女、年齢階級別スマートフォン・パソコンなどを使用した人の人数および割合（平成28年）—週全体

	福井県						全国					
	男			女			男			女		
	人口 (千人)	使用した人 (千人)	使用割合 (%)									
総数	337	194	57.6	356	197	55.3	55,207	34,193	61.9	58,093	33,924	58.4
10～14歳	19	10	52.6	18	10	55.6	2,812	1,682	59.8	2,682	1,566	58.4
15～19歳	20	15	75.0	19	15	78.9	3,082	2,676	86.8	2,926	2,552	87.2
20～24歳	17	16	94.1	15	14	93.3	3,121	2,759	88.4	2,976	2,724	91.5
25～29歳	19	14	73.7	17	16	94.1	3,233	2,796	86.5	3,112	2,809	90.3
30～34歳	20	16	80.0	20	17	85.0	3,650	3,122	85.5	3,553	3,140	88.4
35～39歳	23	21	91.3	23	19	82.6	4,079	3,413	83.7	3,979	3,419	85.9
40～44歳	28	22	78.6	27	22	81.5	4,868	3,881	79.7	4,765	3,967	83.3
45～49歳	26	18	69.2	26	18	69.2	4,635	3,427	73.9	4,570	3,641	79.7
50～54歳	23	15	65.2	23	19	82.6	3,914	2,656	67.9	3,903	2,889	74.0
55～59歳	24	13	54.2	25	17	68.0	3,706	2,222	60.0	3,753	2,304	61.4
60～64歳	26	12	46.2	26	10	38.5	3,930	1,836	46.7	4,084	1,824	44.7
65～69歳	32	11	34.4	34	10	29.4	4,853	1,836	37.8	5,221	1,617	31.0
70～74歳	20	5	25.0	23	7	30.4	3,321	962	29.0	3,833	802	20.9
75歳以上	41	5	12.2	61	4	6.6	6,003	926	15.4	8,735	672	7.7

注) ここでいう「スマートフォン・パソコンなど」とは、スマートフォン・パソコンのほか、スマートフォン以外の携帯電話、タブレット型端末を含む。また、「スマートフォン・パソコンなどの使用」とは、学業、仕事以外の目的で使用した場合をいう。

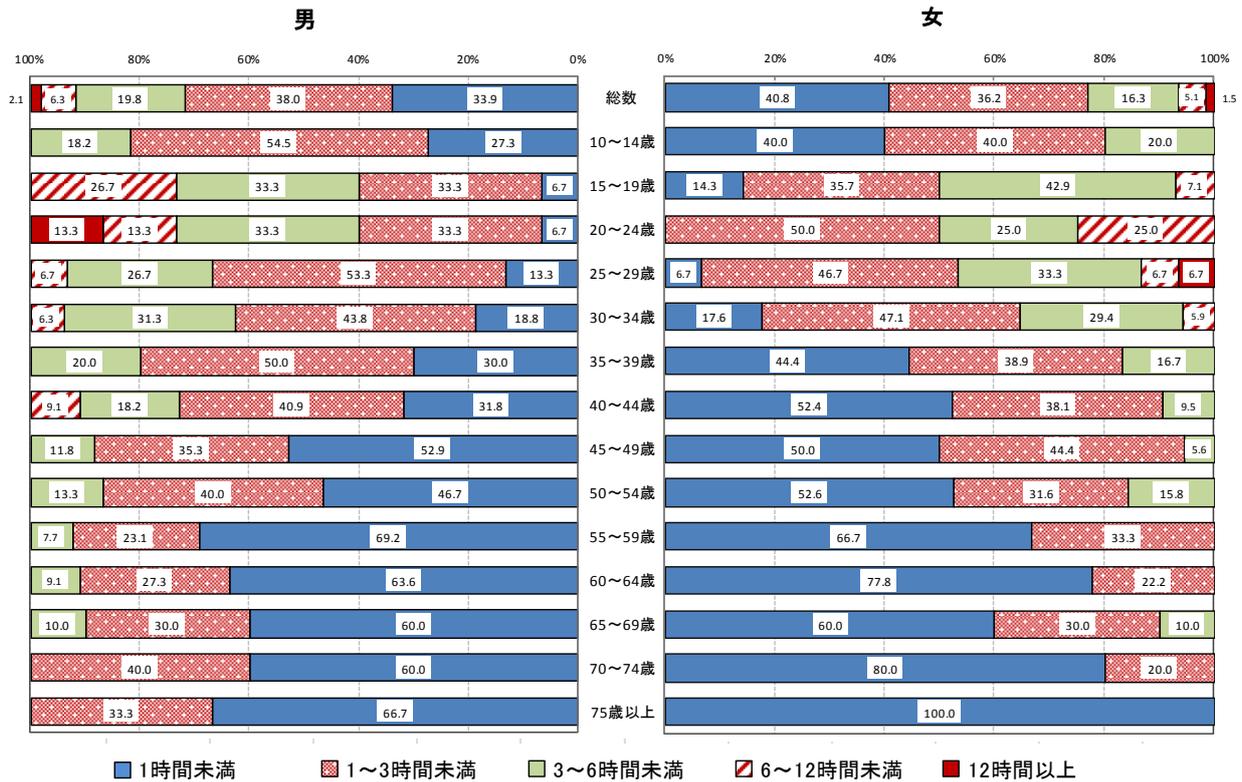
1) スマートフォン・パソコンなどの使用割合は、人口に占めるスマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合

◆スマートフォン・パソコンなどの使用時間は、20～24 歳が長い傾向

スマートフォン・パソコンなどの使用時間についてみると、男性は 1～3 時間未満が 38.0%と最も高く、女性は 1 時間未満が 40.8%と最も高くなっている。

年齢階級別にみると、20～24 歳では、男女ともに 6 時間以上が 25%以上と使用時間が長い傾向がみられる。〔図 39〕

図 39 男女、年齢階級別スマートフォン・パソコンなどの使用時間構成比（平成 28 年）
—週全体、スマートフォン・パソコンなどを使用した人

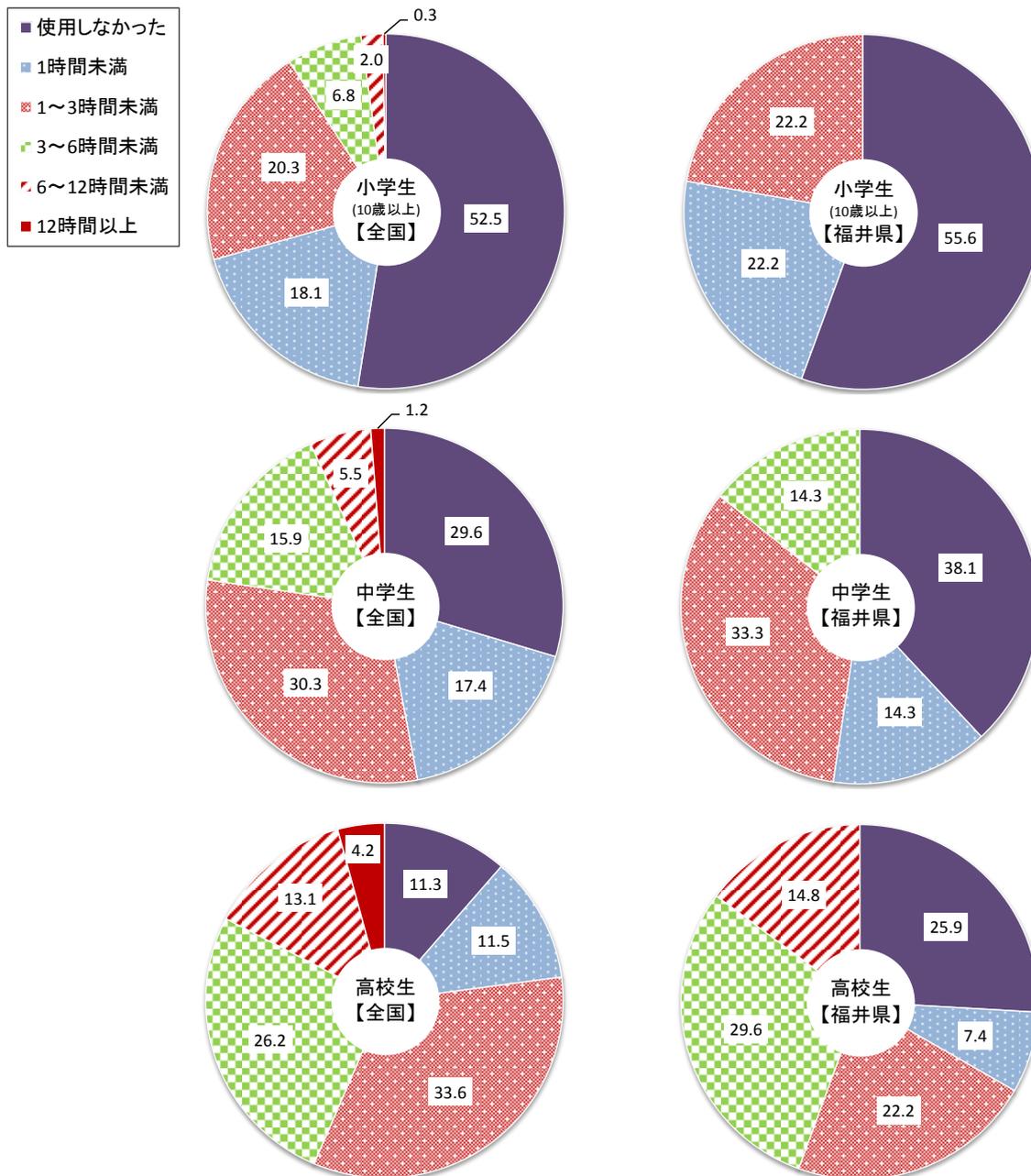


注) 使用時間別の構成比については、を使用した人における割合（使用時間不詳を除く）

◆**高校生の約3割が、スマートフォン・パソコンなどを3～6時間未満使用している**

在学者について、スマートフォン・パソコンなどの使用時間をみると、小学生および中学生は使用しなかった人が最も多く、高校生は3～6時間未満が29.6%と最も多くなっている。小学生、中学生、高校生のいずれも全国より使用時間が短く、福井県の在学者にはスマートフォン・パソコンなどを12時間以上使用した人はいなかった。〔図40〕

図40 在学する学校の種別スマートフォン・パソコンなどの使用時間構成比(%) (平成28年)
一週全体、在学者

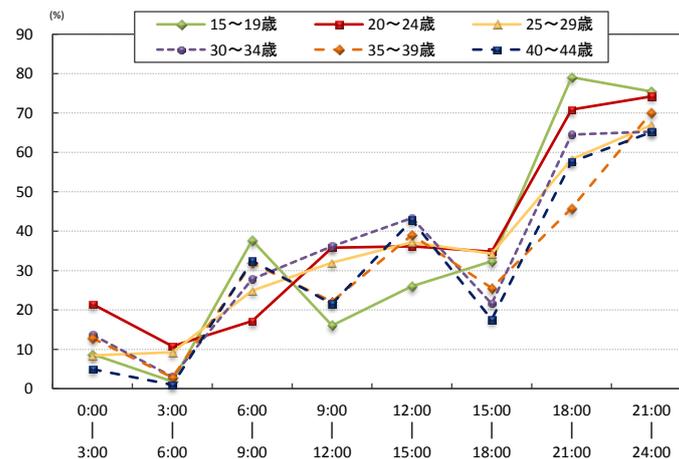


注) 使用時間別の構成比については、使用しなかった人と使用時間別の人数の合計における割合 (使用時間不詳を除く)

◆スマートフォン・パソコンなどの使用は、主に 21～24 時の時間帯に行動者率が高い

スマートフォン・パソコンなどを使用した人のうち、使用割合が男女ともに 70%を超えている 15～44 歳について、年齢階級別に使用した時間帯別の行動者率¹⁾をみると、15～19 歳は 18～21 時、20～44 歳では 21～24 時の時間帯において行動者率が最も高く、15～24 歳は 18 時以降の行動者率が 70%を超えている。〔図 41〕

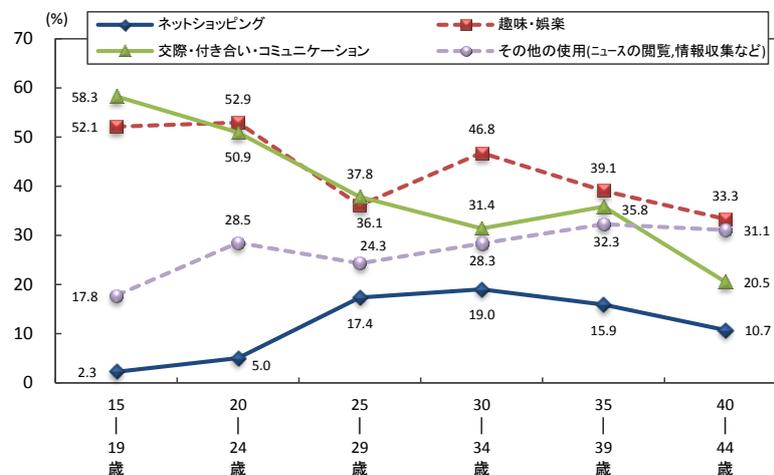
図 4 1 年齢階級、スマートフォン・パソコンなどの使用時間帯別行動者率（平成 28 年）
—平日、15～44 歳



◆15～24 歳の半数以上がコミュニケーションツールとしてスマホ等を使用

スマートフォン・パソコンなどを使用した時間帯別の行動者率が最も高い 21～24 時について、年齢階級、使用目的別²⁾にみると、15～19 歳および 25～29 歳は「交際・付き合い・コミュニケーション」の行動者率が最も高く、20～24 歳および 30～44 歳は「趣味・娯楽」の行動者率が最も高くなっている。また、「交際・付き合い・コミュニケーション」については、年齢が高くなるにつれて行動者率が低くなる傾向がある。〔図 42〕

図 4 2 年齢階級、スマートフォン・パソコンなどの使用目的別行動者率（平成 28 年）
—平日 21：00～24：00、15～44 歳



1) スマートフォン・パソコンなどを使用した人の人口に占める割合
2) 複数回答あり

平成 28 年社会生活基本調査の概要

1 調査の目的

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分および自由時間における主な活動（「学習・自己啓発・訓練」、「ボランティア活動」、「スポーツ」、「趣味・娯楽」および「旅行・行楽」）について調査し、仕事や家庭生活に費やされる時間、地域活動等へのかかわりなどの実態を明らかにし、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的としている。昭和 51 年以来 5 年ごとに実施しており、平成 28 年社会生活基本調査はその 9 回目に当たる。

2 調査の期日

調査は、平成 28 年 10 月 20 日現在で実施した。

ただし、生活時間については、10 月 15 日から 10 月 23 日までの 9 日間のうち、調査区ごとに指定した連続する 2 日間について調査した。

3 調査の地域

平成 22 年国勢調査の調査区（ただし、平成 27 年国勢調査調査区設定時に境界変更等があった場合は、当該境界変更等を反映）から、総務大臣の指定する 7,311 調査区において調査を行った。このうち、「調査票 A」を用いた調査区は 6,904 調査区、「調査票 B」を用いた調査区は 407 調査区である。

なお、福井県では、全市町で 131 調査区（調査票 A：128 調査区、調査票 B：3 調査区）が対象となった。

4 調査の対象

全国の指定調査区の中から選定した約 88,000 世帯に居住する、10 歳以上の世帯員約 20 万人を対象とした。

なお、福井県では、全市町で 1,562 世帯（調査票 A：1,526 世帯、調査票 B：36 世帯）、約 4,100 人（調査票 A：約 4,000 人、調査票 B：約 100 人）が対象となった。

5 調査事項

調査票の種類	調査事項	
	※下線部は調査票 A のみ	
調査票 A および 調査票 B	(1)すべての世帯員に関する事項	ア 世帯主との続柄 イ 出生の年月または年齢 ウ 在学、卒業等教育または保育の状況
	(2)10 歳未満の世帯員に関する事項	育児支援の利用の状況

調査票の種類	調査事項 ※下線部は調査票Aのみ	
調査票A および 調査票B	(3)10歳以上の世帯員に関する事項	ア 氏名 イ 男女の別 ウ 配偶の関係 エ ふだんの健康状態 <u>オ 学習・研究活動の状況</u> <u>カ ボランティア活動の状況</u> <u>キ スポーツ活動の状況</u> <u>ク 趣味・娯楽活動の状況</u> <u>ケ 旅行・行楽の状況</u> <u>コ スマートフォン・パソコンなどの使用状況</u> サ 生活時間の配分および天候
	(4)15歳以上の世帯員に関する事項	ア 介護の状況 イ 就業状態 <u>ウ 就業希望の状況</u> エ 従業上の地位 オ 勤務形態 カ 年次有給休暇の取得日数 キ 仕事の種類 <u>ク 所属の企業全体の従業者数</u> ケ ふだんの1週間の就業時間 コ 希望する1週間の就業時間 サ 仕事からの年間収入
	(5)世帯に関する事項	ア 世帯の種類 イ 10歳以上の世帯員数 ウ 10歳未満の世帯員数 エ 住居の種類 オ 自家用車の所有の状況 カ 世帯の年間収入 キ 介護支援の利用の状況 ク 不在者の有無

用語の説明（生活時間関係）

1 行動の種類

この調査では、1日の行動を20種類に分類し、時間帯（15分単位）別の行動状況（同時に2種類以上の行動をした場合は、主なもの一つ）を調査した。20種類の行動は大きく3つの活動にまとめ、1次活動（睡眠、食事など生理的に必要な活動）、2次活動（仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動）および3次活動（1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動）とした。

1次活動	{	睡眠 身の回りの用事 食事
2次活動	{	通勤・通学 仕事（収入を伴う仕事） 学業（学生が学校の授業やそれに関連して行う学習活動） 家事 介護・看護 育児 買い物
3次活動	{	移動（通勤・通学を除く） テレビ・ラジオ・新聞・雑誌 休養・くつろぎ 学習・自己啓発・訓練（学業以外） 趣味・娯楽 スポーツ ボランティア活動・社会参加活動 交際・付き合い 受診・療養 その他

また、必要に応じ次の区分を用いた。

- ・家事関連……「家事」、「介護・看護」、「育児」および「買い物」
- ・仕事等……「通勤・通学」、「仕事」および「学業」
- ・自由時間……「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」、「休養・くつろぎ」、「学習・自己啓発・訓練（学業以外）」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」および「ボランティア活動・社会参加活動」

2 平均時間

行動の種類別平均時間は、一人1日当たりの平均行動時間数で、次の種類がある。

- 〔・総平均……該当する種類の行動をしなかった人を含む全員についての平均
- 〔・行動者平均……該当する種類の行動をした人のみについての平均

- 〔・曜日別平均……調査の曜日ごとに平均値を算出したもの。平日平均（月曜日～金曜日の平均値）、月曜日～日曜日平均がある。
- 〔・週全体平均……次の式により曜日別結果を平均して算出した。
$$(\text{月曜日平均} + \dots + \text{日曜日平均}) / 7$$
ただし、ある曜日に当該属性を持つ客体が存在しない場合は以下のとおり算出した。
 - ・週全体の総平均時間
$$(5 \times \text{平日平均} + \text{土曜日平均} + \text{日曜日平均}) / 7$$
 - ・週全体の行動者平均時間
$$(\text{月曜日平均} + \dots + \text{日曜日平均}) / \text{月曜日～日曜日の当該行動者のいる曜日数}$$

3 平均時刻

連続する2日間の時間帯別の行動の状況から、主な行動の開始または終了時刻を1日目の午前0時からの経過時間数とし、次の式により平均時刻を算出した。なお、結果表章に用いている曜日は1日目の曜日である。

$$\Sigma (\text{1日目の午前0時からの経過時間数} \times \text{行動者数}) / \text{行動者数}$$

各行動の開始または終了時刻は、次のとおりとした。

- ・起床時刻……12時前に始まり、60分を超えて続く最初の睡眠の終了時刻。なお、睡眠と睡眠の間の睡眠以外の行動が30分以内の場合は睡眠が続いているとした。
- ・朝食開始時刻……4時以降、11時前に始まる最初の食事開始時刻
- ・夕食開始時刻……16時以降、24時（翌日0時）前に始まる最初の食事開始時刻
- ・就寝時刻……17時以降、36時（翌日12時）前に始まり、60分を超えて続く睡眠の開始時刻。該当の睡眠が2行動以上ある場合は、睡眠継続時間が最長の睡眠（継続時間が同じ場合は、早く現れる方の睡眠）の開始時刻とした。また、睡眠と睡眠の間の睡眠以外の行動が30分以内の場合は、睡眠が続いているとした。

福井県総合政策部政策統計・情報課

〒910-8580

福井市大手3丁目17番1号

電話 0776-20-0273(ダイヤルイン)

0776-21-1111(代表)

内線 2376(人口・生活統計グループ)

政策統計・情報課ホームページ

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/toukei-jouhou/>